

## 大西脳神経外科病院

【所在地】 兵庫県明石市大久保町江井島 1661-1 ☎ 078-938-1238

【スタッフ】 大西英之院長、埤本勝司副院長、久我純弘副院長、中嶋市岡従道、兒玉裕司、久保田尚、富永貴志、廣瀬智史(以上9名脳神経外科専門医)、林真人、田中宏知(後期研修医)、鈴木夕希(麻酔科医長)、以上12人が常勤医師。非常勤医師6人。脳外科専門医のうち、7人は脳卒中専門医。

【概要】 00年12月にオープンした24時間救急体制の脳神経外科専門病院で、特に脳卒中を中心に脳神経外科のすべての分野で超急性期の高度脳神経疾患治療に取り組んでいる。明石市を中心に東播磨、神戸市の西部地区を医療圏として救急隊とも連携し、プレホスピタルレコードを作成して活動している。

【例数・治療・成績】 病床数82床(うちICU4床、HCU4床、SCU3床)。年間手術件数は05年506件、06年606件であった。月平均50.5件で、06年の主要な手術内訳は、脳動脈瘤クリッピング術92例、脳腫瘍摘出術82例、頸部内頸動脈内膜剥離術70例、頭蓋内外血管バイパス術33例、脳内出血開頭血腫除去術16例、定位的血腫溶解除去術20例、急性硬膜外・硬膜下血腫除去術14例、慢性硬膜下血腫洗浄除去術100例、脊椎・脊髄手術31例、脳血管内手術22例である。超急性期の脳梗塞に対するtPAを用いた血栓溶解療法は25例に施行して良好な成績をあげている★**脳卒中**=破裂脳動脈瘤には急性期クリッピング術を基本方針にして治療している。未破裂動脈瘤には血管造影の所見を基に手術適応を検討した上で、血管内コイル塞栓術かクリッピング術かを症例ごとに選択し、クリッピング術では内視鏡も併用してより安全に治療している。脳出血には術後の神経機能温存を第一に考慮し、穿頭術による定位的血腫溶解除去術か、開頭術による超音波エコーガイド下の血腫除去を行っている。発症3時間以内の超急性期脳梗塞適応基準に合う症例にはtPAによる血栓溶解療法を、症例により急性期例では血管内手術により血行再建を行っている。また、頸部血管病変にはステント留置術も施行している。モヤモヤ病など脳血管狭窄、脳虚血の明らかな症例には直接血行再建術を行っている★**脳腫瘍**=最も重要な予後決定因子である手術切除率を向上させるため、脳実質内腫瘍には術中にMEP、SEP、ABR、さらに脳神経の直接モニタリングを駆使して機能温存を図りながら全摘を目指している。また、運動・言語野の病変には覚醒下手術も併せて行い、特に浸潤性の強い悪性神経膠腫には5-ALAを用いた蛍光ガイド下顕微鏡手術によって最大限の摘出を行っている。頭蓋底部良性腫瘍には頭蓋底部の骨切除を積極的に行って脳および脳神経への安全性を高め、全摘を目指している★**脊椎・脊髄外科疾患**=脊椎変性疾患(頸椎椎間板ヘルニア、頸部脊椎管狭窄症など)が多く、詳細な画像診断に基づいて侵襲の少ない手術法を選択し、高齢者でも安全な手術を心がけている★**脳血管内手術**=脳動脈瘤にはGDCコイル、脳動脈奇形にはリキッドコイルによる塞栓術、脳塞栓症には塞栓溶解術、脳血栓症や脳動脈狭窄症にはバルーンによる血管形成術やステント留置術を施行している★**頭部外傷**=重症頭部外傷には画像所見で内外減圧手術の適応を決め、頭蓋内圧や頸静脈酸素飽和度などのモニタリング下に脳保護・低体温療法を施行して救命と機能回復を図っている★**機能的脳神経外科疾患**=顔面けいれんや薬物耐性三叉神経痛に微小血管減圧術を施行しており、またパーキンソン病、難治性てんかん等にも機能的手術を施行している★**リハビリテーション**=脳血管疾患等リハ(I)を取得し、PT:7人、OT:3人、ST:1人の技師で急性期の脳卒中を中心に、関節運動力学的要素を取り入れた機能訓練を早期から実施しており、意識障害のある症例には積極的にベッドサイドで呼吸器リハビリを行って肺合併症の予防に成果をあげている。

【医療設備】 患者監視装置、CR、ヘリカルCT、脳血流測定装置(Xe-CT)、MRI(1.5T)2台、DSA、超音波診断装置2台、脳波計、誘発電位検査装置2台、手術用顕微鏡、神経内視鏡、定位脳手術装置、超音波メス、高周波メス、手術ビデオシステムなど。

【外来診療】 月～金(午前9時～12時、午後2時～5時)。受付は各30分前に開始。救急外来は24時間随時診療。大西院長=金、埤本副院長=火、久我医師=水、西川医師(前副院長・非常勤)=月。



大西 英之  
1946年生まれ。  
奈良県立医科大学  
卒



埤本 勝司  
1941年生まれ。  
広島大学医学部  
卒

カルテ開示

○

セカンド・オピニオン

受入

○

データ貸出

○

G薬

×